

## はじめに

本書は、大学入試科目の「公共」（主として大学入学共通テストにて出題される「公共」）で求められる「思考力・判断力・表現力」の確固とした土台づくりをねらいとした問題集です。

「思考力・判断力」を十分に発揮するためには、その基礎となる知識が必要となります。その知識の土台づくりに役立つ基本テキストは、やはり教科書であり、入試対策の第一歩は教科書に書かれた内容の理解といえます。教科書の内容を十分に理解できているかどうかを確認するためには、問題演習が欠かせません。本書は、その確かな土台づくりを、効果的・効率的に行えるように編まれています。

「公共」の教科書は、三つの編からなっています。教科書会社間で各編のテーマの名称に違いが見られますが、基本的には、第1編は「公共の扉」、第2編は「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」、第3編は「持続可能な社会づくりに参画するために」の三編構成となっています。第1編では倫理分野と政治分野の一部が、第2編では政治分野の一部と経済分野、国際分野が、第3編では課題探究学習分野が、それぞれ扱われています。本書は、そうした教科書で扱われる編構成に従い、それぞれの分野の問題を配置しています。また、それぞれの分野ごとに **step 1** と **step 2** を設け、段階的に学習できるように配慮しました (**step 1** にはそれぞれの分野の基本事項を確認するための問題を、**step 2** には総合的な問題を配置しました)。

本書は次のような手順で利用すると、効果的・効率的な土台づくりができると思います。

- ・第一に、教科書あるいはそれに類する参考書を使って、基本事項の習得を図りましょう。
- ・第二に、その知識を土台に、本書を利用して、問題を解きながら、学習してきた知識の習得の度合いを確認するとともに、基礎力・応用力を磨いていきましょう。その際、正解が導きだせるということだけでなく、その他の選択肢に関しても、解説を参考にして知識を広げる材料として利用するという学習姿勢が大切です。
- ・第三に、もう一度、教科書に立ち戻って、周辺の知識を含めて再確認を行いましょう。この演習⇒再確認という作業の繰り返しが確実な知識習得の近道です。

本書を有効に利用し、目標とする得点をあげられることを祈念しています。

# 目次

## 第1編 公共の扉 7

---

### 第1章 公共的な空間をつくる私たち ..... 8

step 1 1-1 現代社会に生きる青年 8, 1-2 伝統と文化 10

step 2 12

### 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 ..... 14

step 1 2-1 先哲の思想 14, 2-2 環境倫理・生命倫理 15

step 2 Ⅰ 18, Ⅱ 20

### 第3章 公共的な空間における基本原理 ..... 23

step 1 3-1 民主政治の基本原則 23, 3-2 各国の政治制度 24,  
3-3 日本国憲法の基本原則 24, 3-4 基本的人権の尊重 25

step 2 Ⅰ 28, Ⅱ 29, Ⅲ 31, Ⅳ 33

## 第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 37

---

### 第1章 民主政治と私たち ..... 38

#### 第1節 統治機構

step 1 1-1 国会と内閣・行政の民主化 38, 1-2 裁判所 39,

1-3 地方自治 40

step 2 Ⅰ 43, Ⅱ 45, Ⅲ 50

#### 第2節 政治過程

step 1 1-4 選挙と政党・世論・圧力団体と大衆運動 52

step 2 54

### 第2章 法の働きと私たち ..... 58

step 1 2-1 法や規範・市民生活と私法など 58, 2-2 契約と消費者の権利・責任 58

step 2 61

## 第3章 経済的な主体となる私たち ..... 62

### 第1節 経済活動と経済循環

- step 1** [3-1] 経済活動 62. [3-2] 経済循環 63.  
[3-3] 大きな政府と小さな政府 64. [3-4] 社会主義の変容 64.  
[3-5] 経済学説 65
- step 2** 66

### 第2節 企業と市場

- step 1** [3-6] 企業 68. [3-7] 市場 機構 <sup>メカニズム</sup> 71. [3-8] 市場の失敗 73.  
[3-9] 寡占市場 74
- step 2** 75

### 第3節 財政と金融

- step 1** [3-10] 財政 78. [3-11] 金融 80. [3-12] 財政政策・金融政策 81
- step 2** 82

### 第4節 国民所得と産業構造

- step 1** [3-13] 国民所得 85. [3-14] 産業構造 87. [3-15] 景気変動と物価 87
- step 2** 88

### 第5節 日本経済の発展

- step 1** [3-16] 高度経済成長期 91. [3-17] プラザ合意とバブル経済 92
- step 2** 94

### 第6節 中小企業・農業問題

- step 1** [3-18] 中小企業問題 98. [3-19] 農業問題 98. [3-20] 農産物問題 98
- step 2** 100

### 第7節 国民生活の諸問題(1) 公害問題、都市問題

- step 1** [3-21] 公害問題 102. [3-22] 都市問題 103
- step 2** I 103. II 105. III 106

### 第8節 国民生活の諸問題(2) 労働問題、社会保障問題

- step 1** [3-23] 労働問題 107. [3-24] 社会保障問題 109
- step 2** 112

## 第4章 国際社会のなかで生きる私たち ..... 115

### 第1節 国際経済の仕組みと動向

- step 1** [4-1] 国際経済の仕組み 115. [4-2] 国際経済の動向 116
- step 2** 118

## 第2節 国際経済の諸問題

**step 1** 4-3 南北問題 121, 4-4 グローバル化の進展と地域的経済統合 122

**step 2** I 123, II 126

## 第3節 国際社会の成立と国際平和組織

**step 1** 4-5 国際社会の成立 129, 4-6 国連憲章と安全保障問題 130

**step 2** I 133, II 134

## 第4節 戦後国際政治の動向

**step 1** 4-7 地域・民族紛争 137, 4-8 冷戦とその終焉<sup>しやうえん</sup> 137,

4-9 軍縮への取組み 138, 4-10 国際平和と国際協力 139

**step 2** 140

## 第3編 持続可能な社会づくりに参画するために

145

**step 1** 課題探究学習の技法 146

**step 2** 149 I 150, II 152

## 第1章 公共的な空間をつくる私たち

### step 1

#### 1-1 現代社会に生きる青年

問1 青年期に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 児童期から青年期への移行に伴って現れる、身体的な性差の様々な特徴は、第一次性徴と呼ばれる。
- ② ハヴィガーストは、青年期を迎える前にあらかじめ達成しておくべき課題の一つとして、職業の選択やそのための準備を挙げた。
- ③ 青年期の始まりと終わりの時期は、時代や文化が異なったとしても一定であるとされる。
- ④ レヴィンは、子どもと大人いずれの集団にも安定的には属しにくい特徴を捉えて、青年期にある人をマージナル・マンと呼んだ。

問2 次の文章中の  ～  に入る語句や人名の組合せとして最も適当なものを、後の①～⑧のうちから一つ選べ。

青年期から成人期への移行に際しては、成年式等、大人への仲間入りの儀礼、すなわち  を経験するように、社会から求められることがある。さらには、青年自身が自分らしさの確立に向けて取り組むことも、重視されてきた。例えば、心理・社会的な発達理論を提起した  は、青年期の発達課題の一つとして、時間の流れのなかで、様々な場面にわたり、自分が自分であることの確信を得ることを挙げた。こうした課題が達成されない様子を指して、彼は  と呼んだ。

- |   |            |         |              |
|---|------------|---------|--------------|
| ① | A モラトリアム   | B エリクソン | C 第二反抗期      |
| ② | A モラトリアム   | B エリクソン | C アイデンティティ拡散 |
| ③ | A モラトリアム   | Bフロイト   | C 第二反抗期      |
| ④ | A モラトリアム   | Bフロイト   | C アイデンティティ拡散 |
| ⑤ | A イニシエーション | B エリクソン | C 第二反抗期      |
| ⑥ | A イニシエーション | B エリクソン | C アイデンティティ拡散 |
| ⑦ | A イニシエーション | Bフロイト   | C 第二反抗期      |
| ⑧ | A イニシエーション | Bフロイト   | C アイデンティティ拡散 |

## 第1章 公共的な空間をつくる私たち

## step 1

## 1-1 現代社会に生きる青年

解答

1

④

2

⑥

3

⑥

4

③

5

③

問1  1  ④が正解。レヴィンは、子どもから大人への移行期にある青年を、子どもと大人のいずれの集団にも安定した帰属意識をもたない存在として位置づけ、そうした青年のことをマージナル・マン(境界人)と呼んだ。

①「第一性徴」という部分を「第二性徴」に置き換えると適当な記述になる。性徴とは、性別ごとの身体的な特徴を指す。生まれてすぐに分かる男女の生殖器官や生殖腺の特徴を第一性徴と呼ぶのに対し、思春期(青年期の初期)に現れる身体の各部分の性的な変化の諸特徴を第二性徴と呼ぶ。

②「青年期を迎える前にあらかじめ達成しておくべき課題」は不適当。ハヴィガーストは、「職業の選択やそのための準備」を青年期の発達課題として位置づけた。③「時代や文化が異なったとしても一定である」は不適当。青年期の始まりと終わりの時期は時代や文化によって異なり、例えば、産業の発達や社会制度の複雑化が進んだ先進国では、青年期は長期化する傾向が見られる。

問2  2  ⑥が正解。

Aには「イニシエーション」が入る。イニシエーションとは、新しい社会集団の成員として加入するための通過儀礼を指す。したがって、「成年式等、大人への仲間入りの儀礼」はイニシエーションに該当する。モラトリアムは猶予期間を意味する語句である。エリクソンは、青年期を、大人としての責任や義務の遂行が社会的に猶予されている期間として捉え、こうした猶予期間を心理社会的モラトリアムと呼んだ。

Bには「エリクソン」が入る。「様々な場面にわたり、自分が自分であることの確信を得ること」は、アイデンティティの確立を意味する。このアイデンティティの確立を青年期の重要な発達課題と位置づけたのはエリクソンである。フロイトは、精神分析を創始し、人間の心の奥底の無意識の領域について論じたことで知られる。

Cには「アイデンティティ拡散」が入る。アイデンティティ拡散とは、